

◎本機をご使用になる前に必ずお読み下さい。

WAGNER

高圧洗浄機シリーズ

防音型
WZ13-100ssp

取扱説明書

日本ワグナー・スプレーテック株式会社

目 次	ページ
1. 安全上の注意	2
2. 仕様	4
3. 用途	4
4. 各部の名称	5
5. 装備機能と操作	7
5-1. アンローダーバルブ	7
5-2. エア抜きバルブ	7
5-3. 洗浄ガン	8
5-4. オイルセンサーとオイル警告灯	9
6. 始業前点検	10
6-1. 燃料の点検	10
6-2. オイルの点検	10
6-3. 燃料・オイル漏れの点検	12
7. 運転方法	13
7-1. 運転準備	13
7-2. 始動	16
7-3. 停止	18
8. 各種作業時の本機操作	19
8-1. 洗浄・剥離作業	20
8-2. 高所揚水作業	21
9. 点検・整備	22
10. 長期保管	27
11. 故障時の対応	28

はじめに

この度はワグナーの防音型高圧洗浄機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
- 本機の取扱いはこの取扱説明書の内容を理解し、安全な取扱いができる人が行って下さい。
- 本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付して下さい。
- 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管して下さい。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。




危険 : 取扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。



注意 : 取扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。

<注意>

: 本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。

1. 安全上の注意



危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれています。
室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないで下さい。



注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けしないで下さい。



注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中で使用したりしないで下さい。
- 運転中は、スパークプラグ・高圧線には触れないで下さい。



注意：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。
燃料の点検や給油・抜き取り、燃料ストレーナーの清掃など、燃料を扱う時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないで下さい。
また、エンジンが冷えてから行って下さい。
- 燃料をこぼした時は、必ず拭きとって下さい。
- 燃料漏れがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理して下さい。
- マフラーや排気ガスなどは高温となります。
引火性のあるもの(燃料・ガス・塗料など)や燃えやすいものは、本機に近づけないで下さい。
- 本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所で運転して下さい。
- 保管用カバーなどをかける時は、本機が冷えてから行って下さい。



注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないで下さい。
- 運転中にエンジンのオイルゲージやポンプのオイルキャップを開けると、高温のオイルが吹き出します。
エンジンオイルやポンプオイルの点検・交換を行う時は、必ずエンジンを停止して下さい。



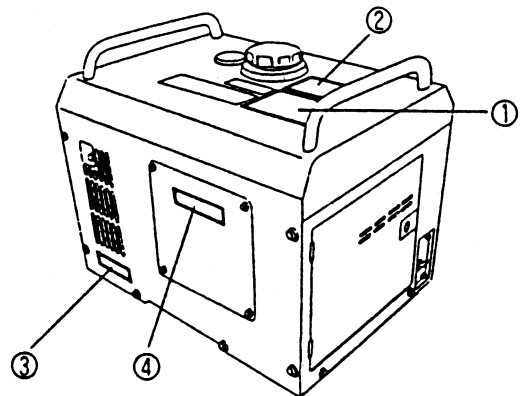
注意：けが

- 運転中に本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置して下さい。
また、車輪付きのものは必ず車輪止めをして下さい。
- 洗浄ホース内は高圧となります。補強層が露出するような深い傷のついた洗浄ホースは使用しないで下さい。また、油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせないで下さい。
- 洗浄ホースおよび洗浄ガンは確実に接続して下さい。
- 高圧水で吹き飛ばされた泥や小石がはね返ってくる場合があります。
作業時には、保護メガネなどの保護具を着用して下さい。
- 洗浄ガンのレバーが噴射『開』になっていると、エンジンが始動し、エアが抜けると同時に高圧水が噴射します。エンジンを始動する時は、必ず洗浄ガンのレバーを噴射『閉』にして下さい。
- 洗浄ガンの人や動物に向けしないで下さい。
- 噴射の反動がありますので、足元を安定させ、洗浄ガンは前後のグリップを両手でしっかり持って、作業を行って下さい。
- 一人で圧力調整を行う時は、洗浄ガンを片手で持つこととなります。一旦噴射を止め、数回に分けて少しずつ調整して下さい。
- 揚水作業等で洗浄ホースや洗浄ガンを取り外す時は、必ずエンジンを停止して下さい。運転中は圧力計がゼロを示していても、洗浄ホース内は高圧になっています。
- 高所から洗浄ガンや洗浄ホースが落下すると危険です。
建築・土木工事の足場など、高所で噴射・揚水作業を行う時は、足場鋼管などに洗浄ホースをしっかりと固定して下さい。
- 点検・整備を行う時は、必ずエンジンを停止して下さい。
- 改造したり、部品を取りはずしたりして使用しないで下さい。

■ 警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損した時は、新しいラベルを指定場所に貼りかえて下さい。
ラベルの注文は()内の番号で注文して下さい。

- ① 排気ガス中毒 (P/N 2263420)
- ② 火災 (P/N 2263421)
- ③ やけど (P/N 2263422)
- ④ 高電圧 (P/N 2263423)



2. 仕様

モデル		WZ13-100ssp
ポンプ	名称	MW3SF28G
	圧力(MPa[kgf/cm ²])	9.8 {100}
	吸水量 (L/min)	13
	回転速度 (min {rpm})	3600
	潤滑油の種類/容量 (L)	ガソリンエンジン用(SD 級以上)/0.3
	吸込液の種類/温度	清水/常温
エンジン	名称	GM132PN
	形式	空冷 4 サイクル OHV ガソリンエンジン
	連続定格出力 (kW/min {PS/rpm})	2.1/3600 {2.8/3600}
	排気量 (L)	0.126
	燃料の種類	自動車用無鉛ガソリン
	潤滑油の種類/容量 (L)	ガソリンエンジン用(SD 級以上)/0.6
	始動方式	リコイルスターター式
装備	メーター	圧力計
	調圧	アンローダーバルブ
	エア抜き	自動エア抜きバルブ
	自動停止	オイルセンサー(警告ランプ付)
燃料タンク容量 (L)		5.0
連続定格運転時間 (時間)		3.5
外形寸法 LxWxH (mm)		508x412x449
乾燥質量 (kg)		41
付属品	吸水ストレーナー	円盤形(#30)
	吸水ホース	1/2" x 3m
	余水ホース	3/8" x 3m
	洗浄ホース	3/8" x 30m (両端カプラー付)
	洗浄ガン	扇型ノズル(1549)・カプラープラグ付

3. 用途

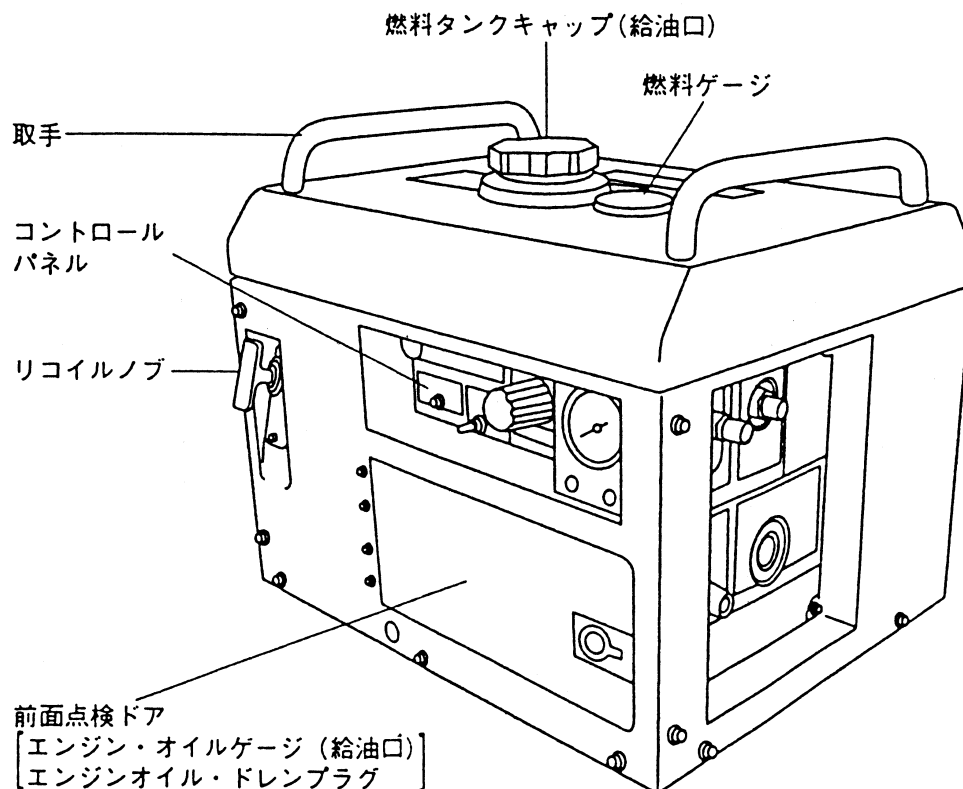
- 建物の外壁・スレート屋根などの再塗装前の洗浄・下地処理
- 塗料の剥離、木材の皮剥ぎ、船底のフジツボ落とし
- ビルの外壁・受水槽・高架水槽・下水管などの洗浄
- 土木・建設現場での矢板などの洗浄や高所揚水
- 石材、ガードレール、プールなどの洗浄



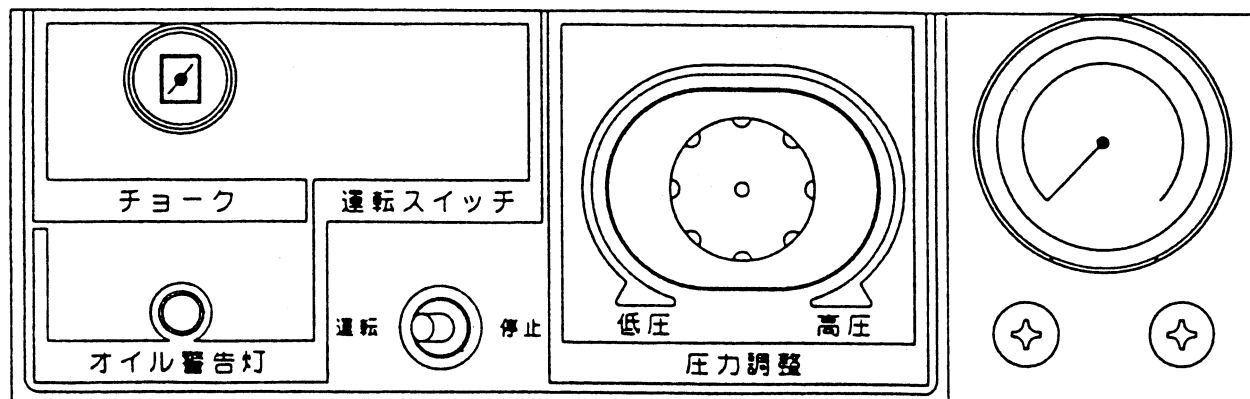
注意: 物的損害

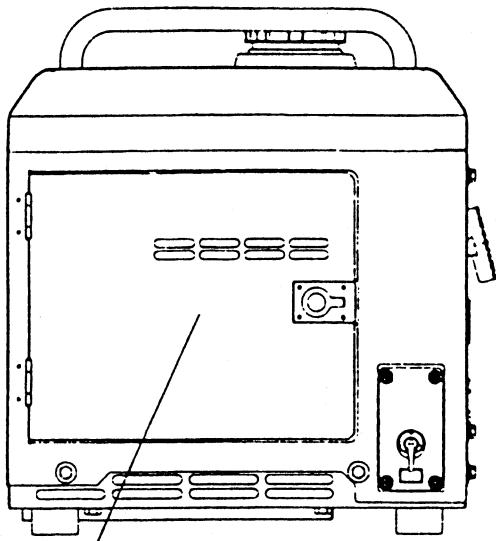
- 洗浄対象物によっては高圧水により破損することがあります。
水圧の調整をして使用して下さい。

4. 各部の名称

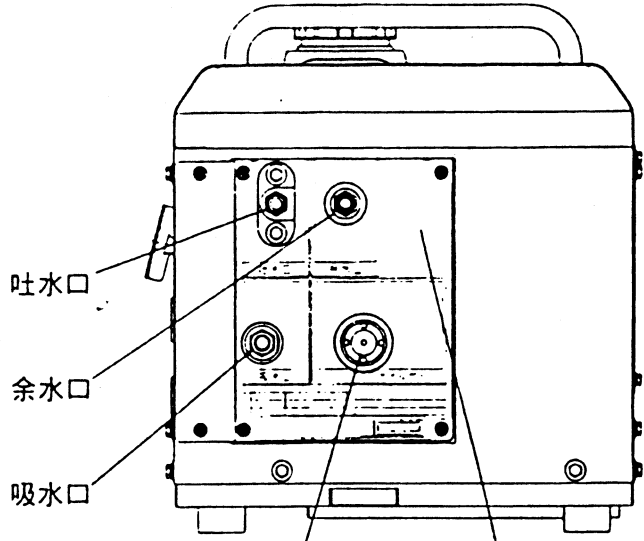


〈コントロールパネル〉





左側面点検ドア
[エアクリナー]



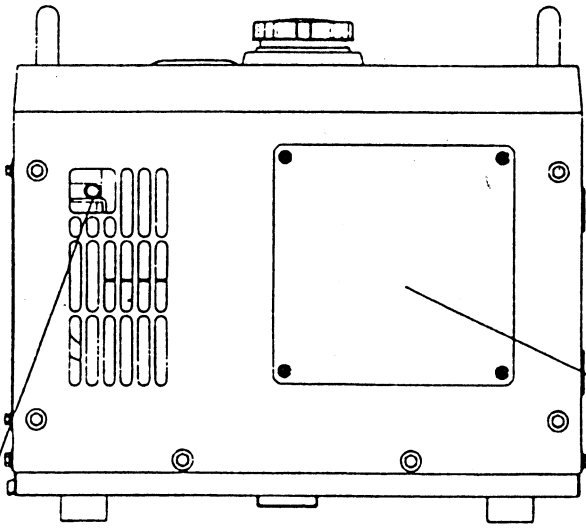
吐水口

余水口

吸水口

ポンプ・オイルゲージ

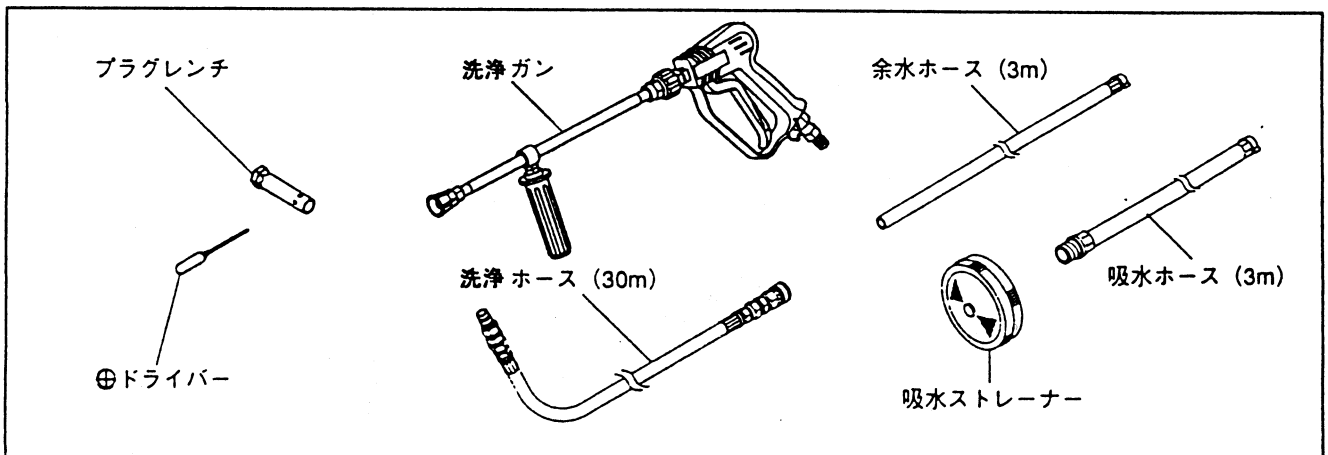
右側面点検パネル
[ポンプ・オイルキャップ (給油口)
ポンプオイル・ドレンプラグ]



マフラー
排気口

後部点検パネル
[スパークプラグ
キャブレター]

<付属品>



プラグレンチ

⊕ドライバー

洗浄ガン

洗浄ホース (30m)

余水ホース (3m)

吸水ホース (3m)

吸水ストレーナー

5. 整備機能と操作

5-1. アンローダーバルブ

(1) オート・アンロード(自動無負荷)機能

噴射を止めると、自動的に余水通路が全開になり、圧力ゼロの無負荷運動になります。
省エネを目的とした機能です。

(2) リリーフ機能

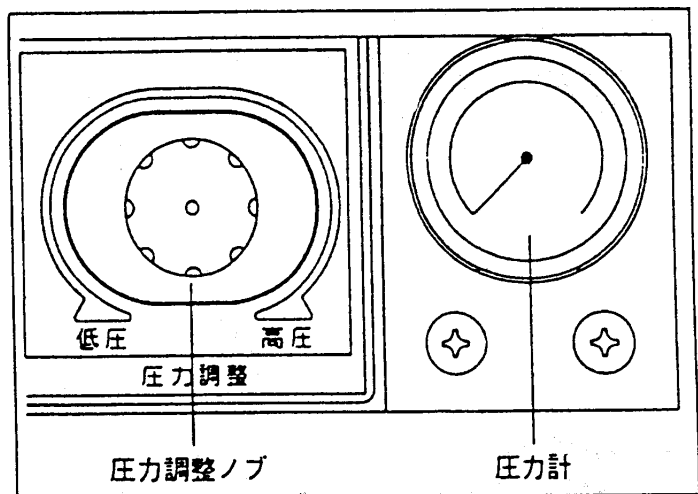
噴射中は、圧力が設定を超えないよう吐水の一部を余水通路へ流し、圧力を保持します。
安全を目的とした機能です。

(3) 圧力調整機能と操作方法

圧力は、2.9～9.8MPa[30～100kgf/cm²]の範囲で調整することができます。

■ 圧力調整方法

圧力調整ノブを右へ回すと圧力が
高くなり、左へ回すと低くなります。



5-2. エア抜きバルブ

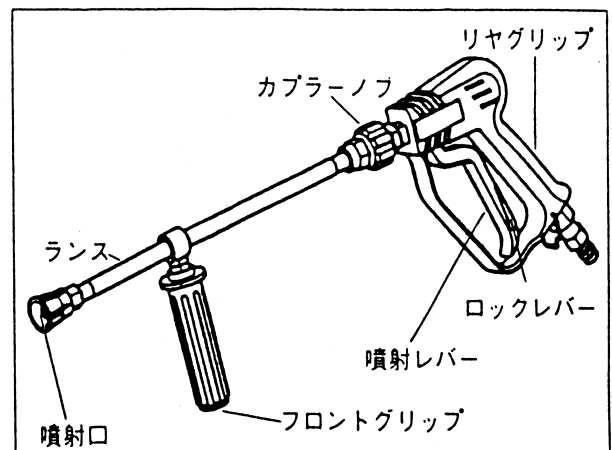
(1) オート・エア抜き機能

エンジンを始動すると自動的にポンプ内のエアが抜け、余水ホースから水が出てきます。
エア抜き操作の必要はありませんが、エンジン始動時には、必ずこの確認を行って下さい。

5-3. 洗淨ガン

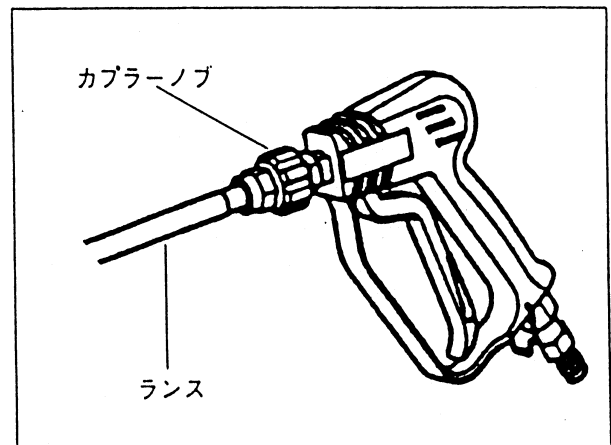
(1) 噴射レバーの操作方法

噴射レバーを引くと噴射口から高圧水(15° 扇型)が噴射し、放すと止まります。また、噴射レバー裏のロックレバーを手で倒すと、噴射『閉』で噴射レバーを固定できます。



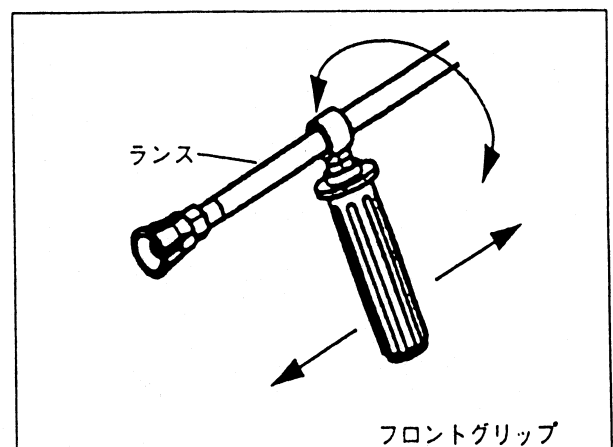
(2) ランスの接続

ランスの接続は、カプラーノブを手で回すことで、ランス着脱が行えるクイックカプラー式になっています。噴射していない時は、ランスは自由に回転しますので、扇型ノズルの向きを自由に変わることができます。



(3) フロントグリップの操作方法

フロントグリップを左に回して緩めると、回転と前後の移動ができます。また、扇型ノズルの向き調整でランスを回転させるには、このグリップを持って行います。



5-4. オイルセンサーとオイル警告灯



注意: やけど

- エンジンの自動停止により、オイル量の点検を行う時は、エンジンが冷えてから行って下さい。



注意: けが

- オイルセンサー作動確認でエンジンを再始動する時は、必ず洗浄ガンのレバーを噴射『閉』にして下さい。

(1)エンジンの自動停止機能

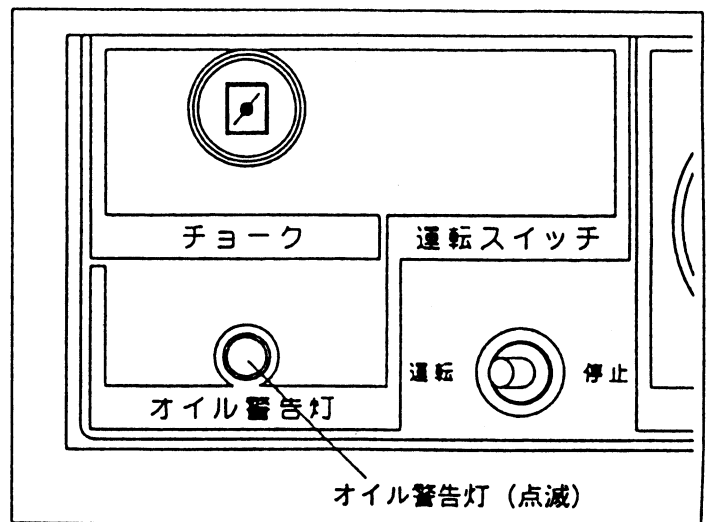
エンジンオイルが少なくなるとセンサーが作動し、オイル警告灯が点滅しながらエンジンが自動停止します。エンジンの焼付き防止を目的とした機能です。

<注意>

- オイルセンサーには、オイルの劣化を検知する機能はありません。
『9. 点検・整備 (1)エンジンオイルの交換(P23)』に従って、エンジンオイルは定期的に交換して下さい。

(2)オイルセンサー作動の確認方法

エンジンが自動停止すると、オイル警告灯も消灯します。もう一度エンジンを始動し、次に自動停止する時に、オイル警告灯が点滅するか確認して下さい。



6. 始業前点検



注意：火災・やけど・けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないで下さい。
また、エンジンが冷えてから行って下さい。

6-1. 燃料の点検



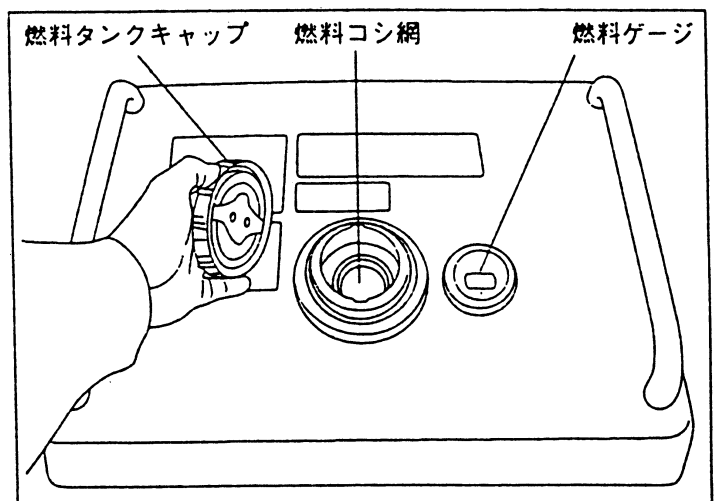
注意：火災

- 燃料をこぼした時は、必ずふき取って下さい。

燃料ゲージでタンク内燃料の量を点検し、不足している時は給油して下さい。

<注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えて下さい。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用して下さい。
- 燃料タンクは容量5Lですが、口元いっぱいには入れず少し控え目に入れて下さい。



6-2. オイルの点検

オイルゲージでオイル量を点検して下さい。

<注意>

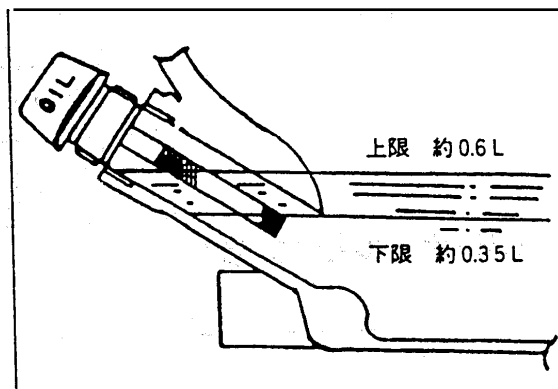
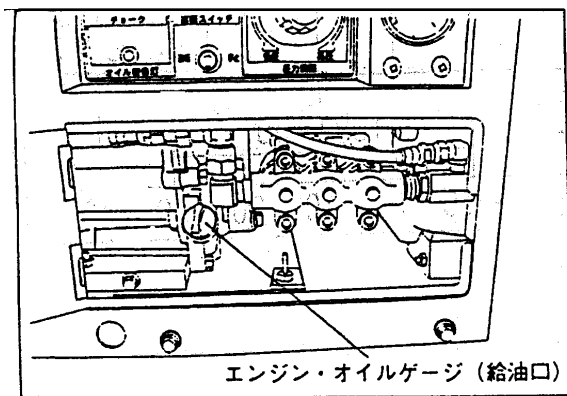
- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認できません。本機を水平にして、点検して下さい。
- エンジンオイルが劣化していたり、ポンプオイルに水が混入して白濁している時は、交換が必要です。
『9. 点検・整備(1)エンジンオイルの交換、(2)ポンプオイルの交換(P23)』に従って、オイルを交換して下さい。

(1) エンジンオイル

オイルゲージを給油口に当てて(ねじ込まないで)、油面を確認して下さい。
上限レベルより少なくなっている時は、給油して下さい。

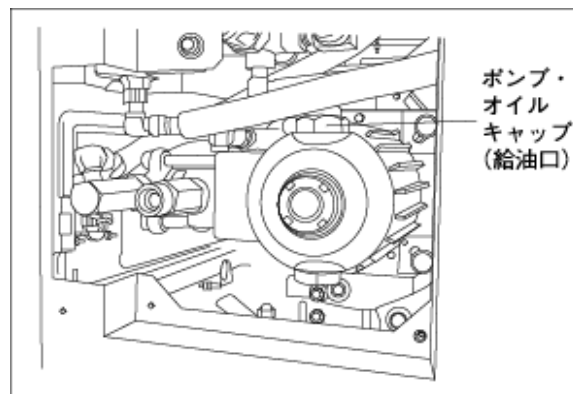
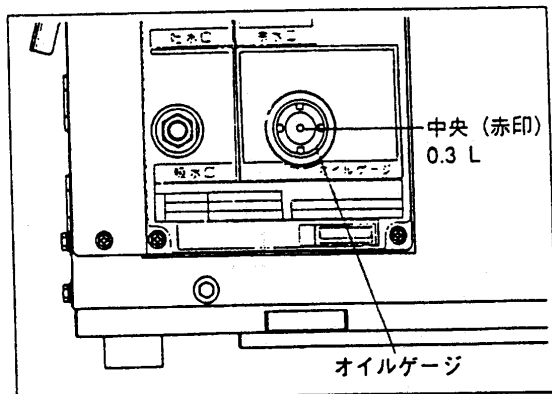
<注意>

●オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。



(2) ポンプオイル

オイルゲージ窓を見て、油面を確認して下さい。中央レベル(赤印)より少なくなっている時は給油して下さい。



(3) エンジンオイル・ポンプオイルの選定
SD 級以上のガソリンエンジン用
オイルで、外気温に応じて適正
な粘度(表を参照)のものを使用し
て下さい。

<注意>

- マルチグレードを使用した場合、
外気温が高いとオイルの消費量
が増えますので、オイルの残量に
注意して下さい。

オイル粘度の選定基準

シングル グレード	10W					
	20W					
	#20					
	#30					
	#40					
マルチ グレード	10W-30					
外気温度	-10	0	10	20	30	40 °C

6-3. 燃料・オイルもれの点検



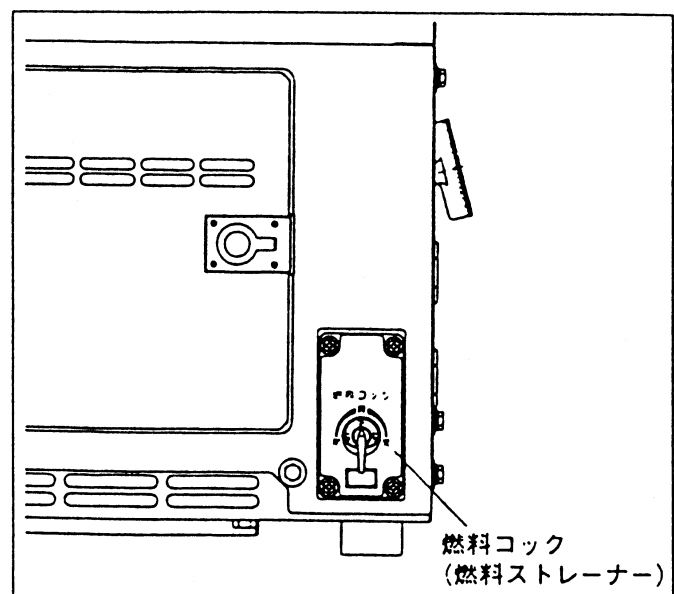
注意: 火災

- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理して下さい。

燃料配管: 燃料ストレーナーなどからの燃料もれとオイルもれがないか点検して下さい。

<注意>

- 燃料もれの点検は燃料コックを開い
て行い、点検後は必ず閉じて下さい。



7. 運転方法

7-1. 運転準備

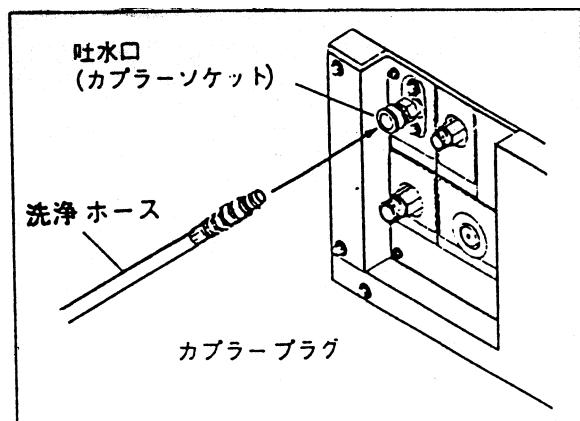
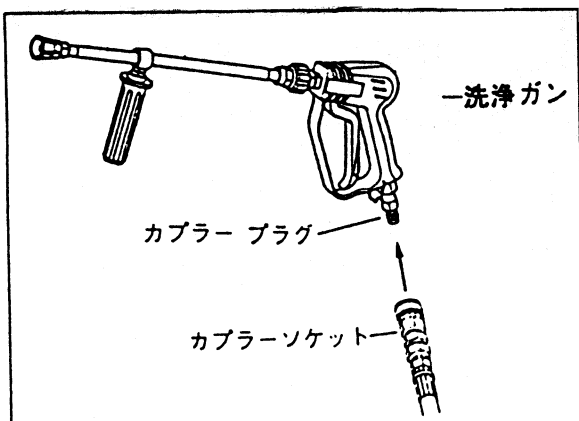
(1) 洗浄ガン・洗浄ホースの接続



注意: けが

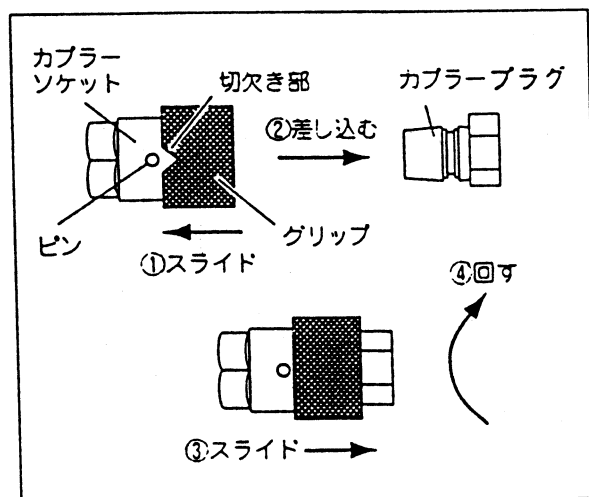
- 補強層が露出するような深い傷のついた洗浄ホースは使用しないで下さい。
- 洗浄ガン・洗浄ホースは確実に接続して下さい。

洗浄ガンと洗浄ホース、洗浄ホースと本機吐水口の各接続は、ワンタッチカプラー式になっています。



このカプラーは、安全機構として、ピンと切欠き部の位置を一致させないと、カプラーソケットのグリップがスライドしない構造になっていますので、次の手順に従って取り付けして下さい。

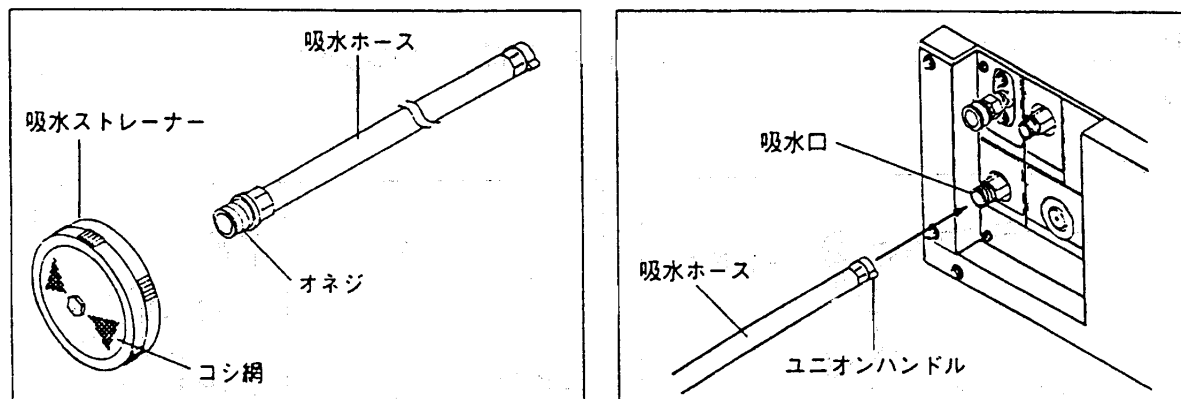
- ①カプラーソケットのグリップを回してピンと切欠き部を合わせます。
- ②グリップを引いてスライドさせます。
- ③そのまま、カプラーソケットをカプラープラグに差し込みます。
- ④グリップを押してスライドさせます。
- ⑤抜け防止のため、グリップを回して、ピンと切欠き部をずらしします。



(2) 吸水ストレーナー・洗浄ホースの接続

<注意>

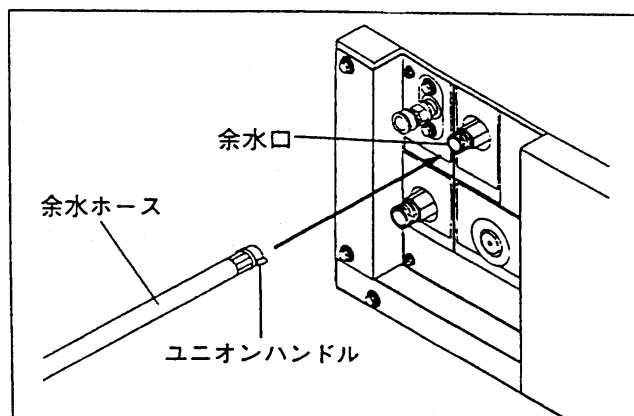
- コシ網が破れた吸水ストレーナーを使用すると、ゴミが侵入し『圧力が上がらない』などの原因となるだけでなく、ポンプ・バルブ類の寿命を短くします。
- コシ網が目詰まりした吸水ストレーナーを使用すると、『吸水しない』『圧力が上がらない』などの原因となるだけでなく、ポンプ内部にエアが発生しポンプの寿命を短くします。
- 吸水ホースが破れていたり、接続部がゆるんでいたりすると、ポンプはエアを吸込み『吸水しない』『圧力が上がらない』などの原因となります。



- ① 吸水ホースのオネジ側に、吸水ストレーナーを手で締めつけます。
- ② 本機の吸水口に、吸水ホースのユニオンハンドルを手で回して接続します。

(3) 余水ホースの接続

- ① 本機の余水口に、余水ホースのユニオンハンドルを手で回して接続します。



(4) 水タンクの設置

- ① 余水ホースが十分に届く位置に、水タンクを置きます。

<注意>

- 本機のマフラー排気方向は避けて、冷却吸気口をふさがないように本機から少し離して設置して下さい。
- 吸込揚程(タンク水面から本機吸水口までの高さ)が0.5m以内となるよう設置して下さい。これを越えて使用すると、ポンプ内でエアが多く発生し寿命が低下します。

- ② 水タンクの中に、水道水などの清水を入れます。

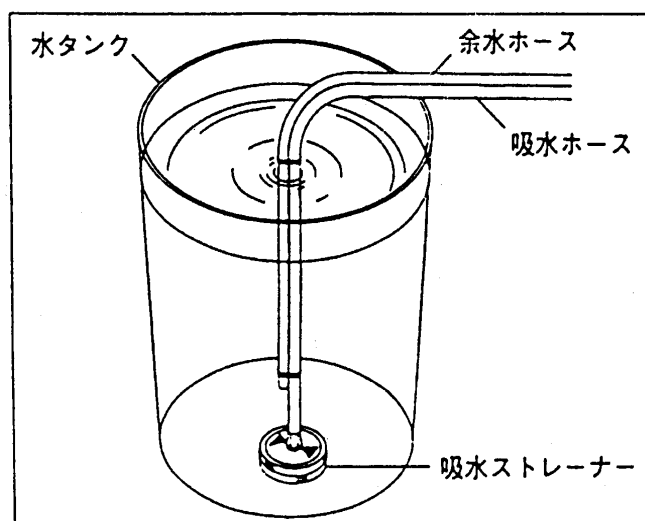
<注意>

- 河川・池・工事用水などの泥・砂・ゴミを含んだ水を使用すると、吸水ストレーナーがすぐに目詰まりを起こすだけでなく、ポンプ・バルブ類が故障する原因となります。

- ③ 吸水・余水ホースを水タンクの中に入れます。

<注意>

- 吸水ホースは、ストレーナーからエアを吸わないよう水中に深く沈めて下さい。
- 余水ホースは、水タンクから飛び出さないよう、吸水ホースなどに縛り付けて下さい。



7-2. 始動



危険: 排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれています。
室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないで下さい。



注意: 排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないで下さい。



注意: 火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となります。
引火性のあるもの(燃料・ガス・塗料など)や燃えやすいものは、本機に近づけないで下さい。
- 本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所に設置して下さい。



注意: けが

- 運転中に本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置して下さい。
また、車輪付きのものは必ず車輪止めをして下さい。
- 洗浄ガンのレバーが噴射『開』になっていると、エンジンが始動し、エアが抜けると同時に高圧水が噴射します。
エンジンを始動する時は、必ず洗浄ガンのレバーを噴射『閉』にして下さい。

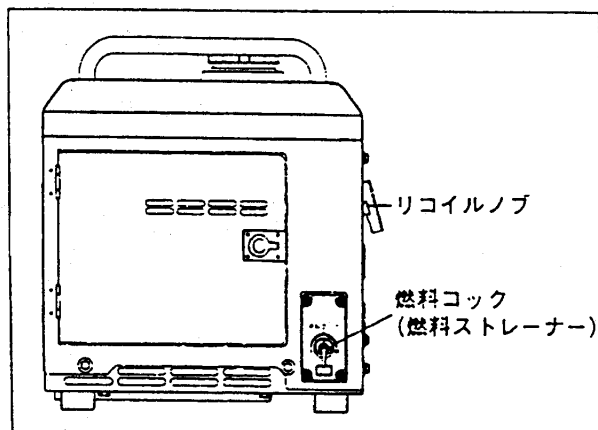
<注意>

- ポンプが凍結した状態で始動すると、パッキン類が裂傷するだけでなく、バルブが凍結していた場合はポンプ内が異常高圧となり、ポンプが破損する恐れがあります。
寒冷時には、運転スイッチを『停止』にしてリコイルノブを引き、通常時より回転が重くないか確認して下さい。
- 空回転を1分以上続けると、ポンプが故障する原因となります。
エンジン始動後10秒程度で自動的にエアが抜けますが、この『エア抜き運転』中は空運転の状態になっていますので、エアが抜けるまで本機から離れないで下さい。
また洗浄ガンのレバーを引いて噴射『開』にすると、エアが抜けやすくなりますが、それでも1分以内でエアが抜けない時は、エンジンを停止させて、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけて下さい。

① 洗浄ガンのレバーを噴射『閉』にします。

② 燃料コックを『開』にします。

③ チョークノブを引きます。

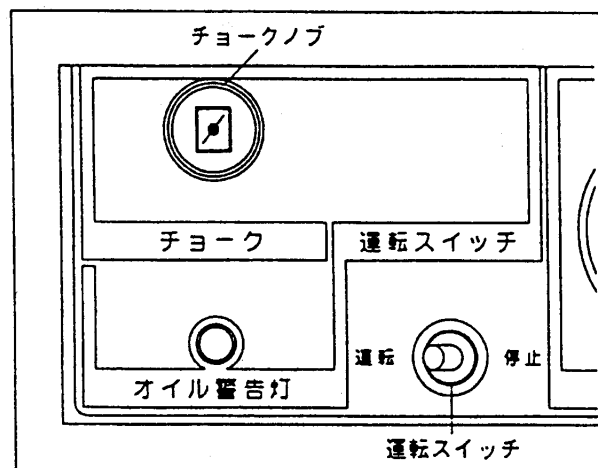


<注意>

●エンジンの暖気状態や外気温度に合わせて、チョークノブの引き具合を加減して下さい。

④ 運転スイッチを『運転』にします。

⑤ リコイルノブを重くなるまでゆっくりと引き、一度元に戻してから一気に引きます。



<注意>

●リコイルノブは、いっぱい引ききらないで下さい。
また、引いた位置から手を放さずに、ゆっくり戻して下さい。

⑥ エンジン始動後、チョークノブを戻します。

<注意>

●始動後、すぐにチョークノブを全部もどすとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に戻し、最後には必ず完全に戻して下さい。

⑦ ポンプ内のエアが抜けて、余水ホースから水が出るのを確認します。

⑧ 約 5 分間、暖気運転をします。

7-3. 停止



注意:けが

- 洗淨ホースや洗淨ガンを取りはずす時は、必ずエンジンを停止し、洗淨ガンのレバーを引いて洗淨ホース内の圧力を抜いて下さい。

<注意>

- 空運転を1分以上続けると、ポンプが故障する原因となります。
エンジン停止時の『水抜き運転』中は、空運転の状態になっていますので、水が抜けたらすぐにエンジンを停止させて下さい。
運転スイッチを『停止』にしても、エンジンが止まらない時は、そのまま燃料コックを閉じて下さい。数分後に停止します。
その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけて下さい。

①洗淨ガンのレバーを『閉』にし、約3分間、冷気運転をします。

②運転スイッチを『停止』にします。

<注意>

- 洗淨終了時の停止は手順2の前に、次の『ポンプ内の水抜き運転』を行って下さい。
吸水ホースを水タンクから抜き出すと、10秒程度で余水ホースから水が出なくなりますので、すぐにエンジンを停止させます。

③エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

④洗淨ガンのレバーを引いて、洗淨ホース内の圧力を抜きます。

<注意>

- 凍結時期の作業終了時には、洗淨ホースを取りはずし内部の水抜きを行って下さい。

8. 各種作業時の本機操作



注意: 物的損害

- 洗浄対象物によっては高圧水により破損することがあります。
水圧の調整をして使用して下さい。



注意: 感電

- 本機に水をかけたり、雨中で使用したりしないで下さい。
- 運転中、スパークプラグ・高圧線には触れないで下さい。



注意: やけど

- 運転中、マフラー排気口付近は高温になっていますので、触れないで下さい。



注意: けが

- 高圧水で吹き飛ばされた泥や小石がはね返ってくる場合があります。
作業時には、保護メガネなどの保護具を着用して下さい。
- 洗浄ガンを人や動物に向けしないで下さい。
- 噴射の反動がありますので、足元を安定させ、洗浄ガンは前後のグリップを両手でしっかり持って、作業を行って下さい。
- 一人で圧力調整を行う時は、洗浄ガンを片手で持つことになります。
一旦噴射を止め、数回に分けて少しずつ調整して下さい。
- 洗浄ガンや洗浄ホースが落下すると危険です。
建築・土木工事の足場など、高所で噴射・揚水作業を行う時は、足場鋼管などに洗浄ホースをしっかり固定して下さい。
- 洗浄ホースは、油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせないで下さい。

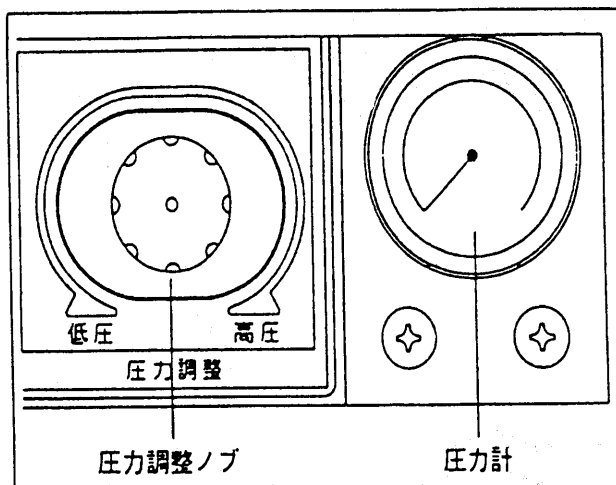
8-1. 洗浄・剥離作業

- ①噴射口を前方下向きにして洗浄ガンを持ち、噴射させながら圧力計を見ます。

<注意>

- 噴射を止めている時は圧力ゼロの無負荷運動となっています。噴射状態でなければ、圧力の確認はできません。

- ②作業に適した圧力になっていない時は、噴射を止めます。



- ③アンローダーバルブの圧力調整ノブを設定したい圧力の方に少し回します。

<注意>

- 調整ノブを右に回すと圧力が高くなり、左へ回すと低くなります。
『5-1. アンローダーバルブ (P7) 』を参照して下さい。
- 圧力調整の下限は 2.9MPa[30kgf/cm²]です。
調整ノブを左へ回し続けるとネジ接続が外れますので、この圧力より下げないで下さい。

- ④手順①～③を繰り返して少しずつ調整し、適した圧力に設定します。

<注意>

- 2人の時は、噴射と圧力調整を分担して下さい。

- ⑤洗浄ガンのレバーを引いて作業を開始します。

8-2. 高所揚水作業



注意:けが

- 洗淨ホースや洗淨ガンを取りはずす時は、必ずエンジンを停止し、洗淨ガンのレバーを引いて洗淨ホース内の圧力を抜いて下さい。

- ①エンジンを停止させます。
- ②洗淨ガンのレバーを引いて、洗淨ホース内の圧力を抜きます。
- ③洗淨ホースを本機から抜き取ります。
- ④洗淨ガンをホースから取り外します。
- ⑤洗淨ホースを揚水場所まで運び、カプラーソケット側を下にして降ろします。
- ⑥洗淨ホースが落下しないように、ひもなどで固定します。
- ⑦洗淨ホースを本機に接続します。
- ⑧高所の方で揚水準備が完了したら、エンジンを始動させます。

<注意>

- 圧力計は、洗淨ガン接続時に設定した時の値を示しません。
 - 低い圧力に設定していた時は、余水ホースからも水が出ます。
この時は、余水がゼロになるまで、アンローダーバルブの調整ノブを右へ回して下さい。
- ⑨揚水が終わり水を止める時は、エンジンを停止させます。

9. 点検・整備



注意：感電・けが

- 点検・整備を行う時は、必ずエンジンを停止して下さい。



注意：やけど

- 絶対に火気を近づけないで下さい。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから点検・整備を行って下さい。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表に従って定期的に点検・整備を行って下さい。

<注意>

- 始業前点検以外は、専門技術者が行って下さい。
- 表中の※印は、お求めの販売店か弊社営業所に申しつけて下さい。
- 交換部品は、必ず純正品を使用して下さい。

項 目	始業 ごと	25 時間 ごと	50 時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	500 時間 ごと	ページ	
各部の清掃・締付点検	○							
エンジンオイルの点検・給油	○						P10	
エンジンオイルの交換/1回目		○					P23	
エンジンオイルの交換/2回目以降			○					
ポンプオイルの点検・給油	○						P11	
ポンプオイルの交換/1回目				○			P23	
ポンプオイルの交換/2回目以降						○		
燃料・オイルもれの点検	○						P12	
吸水ストレーナーの点検・清掃	○						P14	
吸水・洗浄ホースの点検	○						P13,14	
エアクリーナーの清掃		○					P24	
燃料ストレーナーの清掃			○				P25	
スパークプラグの清掃			○				P26	
スパークプラグの調整					○			
吸排気弁スキマの点検・調整						※		
吸排気弁座の点検・すり合わせ						※		
燃焼室の清掃						※		
燃料パイプの交換	3年(但し、必要に応じて交換)							

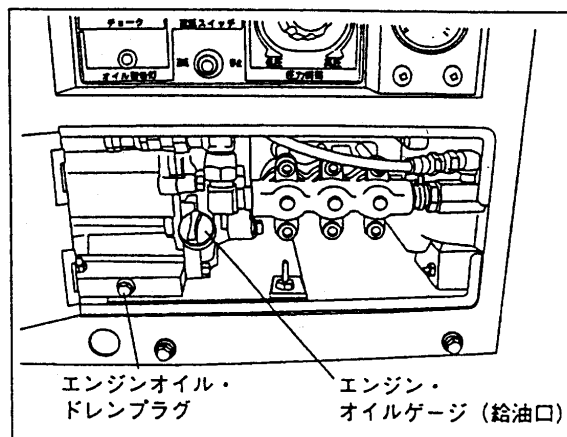
(1) エンジンオイルの交換

<注意>

●オイルは『6-2.オイルの点検 (3)エンジンオイル・ポンプオイルの選定 (P12)』に従って選定して下さい。

- ①前面の点検ドアを開けます。
- ②オイルゲージを外します。
- ③ドレンプラグを外して、オイルを抜きます。
- ④ドレンプラグを締めつけます。
- ⑤オイルを上限レベルまで入れます。(0.6L)
- ⑥オイルゲージを締めつけます。

1回目	25時間目
2回目以降	50時間ごと



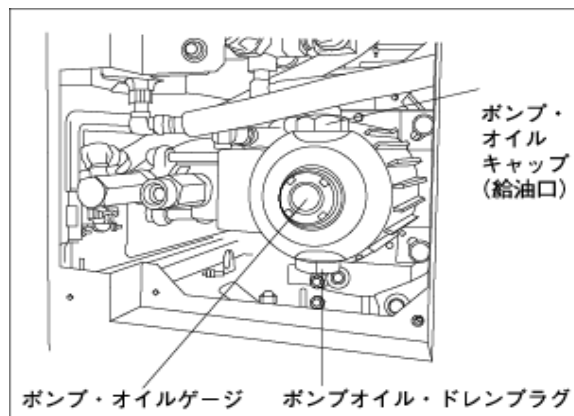
(2) ポンプオイルの交換

<注意>

●オイルは『6-2.オイルの点検 (3)エンジンオイル・ポンプオイルの選定 (P12)』に従って選定して下さい。

- ①右側面のホース接続パネルを取り外します。
- ②オイルキャップを外します。
- ③前面の点検ドアを開けます。
- ④ドレンプラグを外して、オイルを抜きます。
- ⑤ドレンプラグを締めつけます。
- ⑥オイルをオイルゲージ窓の中央レベル(赤印)まで入れます。(0.3L)
- ⑦オイルキャップを締めつけます。

1回目	100時間目
2回目以降	500時間ごと



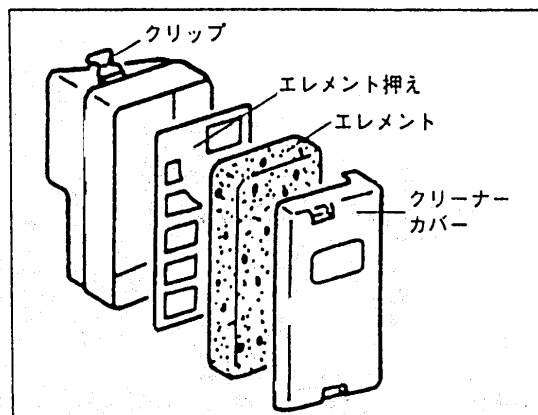
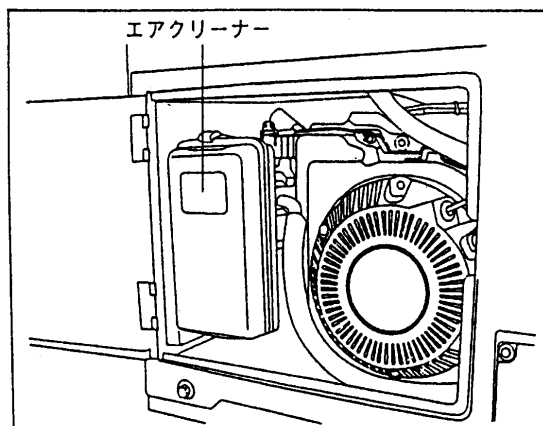
(3)エアクリーナーの清掃

清掃	25 時間ごと
----	---------

<注意>

●汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などをおこす原因となります。ホコリの多い場所で使用した時は、早めに清掃して下さい。

- ①左側の点検ドアを開けます。
- ②上下のクリップを外し、クリーナーカバーを取ります。
- ③エレメントを白灯油で洗浄後、よく絞ります。
- ④洗浄したエレメントをエンジンオイルに浸し、固く絞って取りつけます。



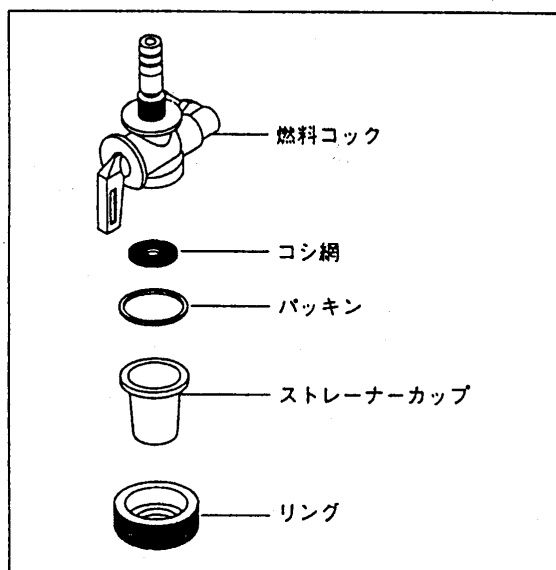
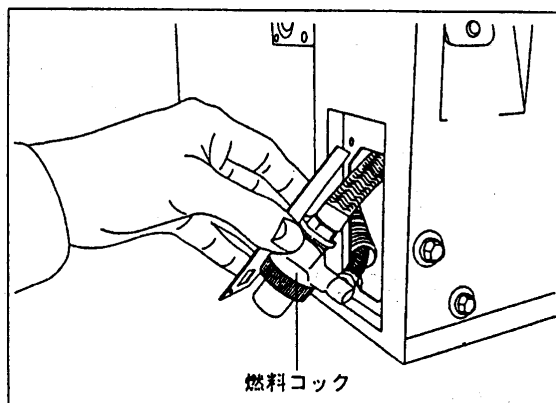
(4) 燃料ストレーナーの清掃

清掃	50 時間ごと
----	---------

- ① 燃料コックを『閉』にします。
- ② 燃料コックパネルのボルト 4 本を外します。
- ③ パネルごと燃料コック(燃料ストレーナー)を引き出します。
- ④ リングを左に回し、ストレーナーカップを外します。
- ⑤ ストレーナーカップ内の水や沈殿物を捨て、コシ網に付着しているゴミを取り除きます。
- ⑥ パッキン面をきれいに拭き取り、リングをしっかり締めつけます。
- ⑦ パネルを元の位置に取り付けます。

<注意>

- 取り付けた後は、燃料コックを『開』にして燃料もれを点検して下さい。点検後は『閉』にして下さい。



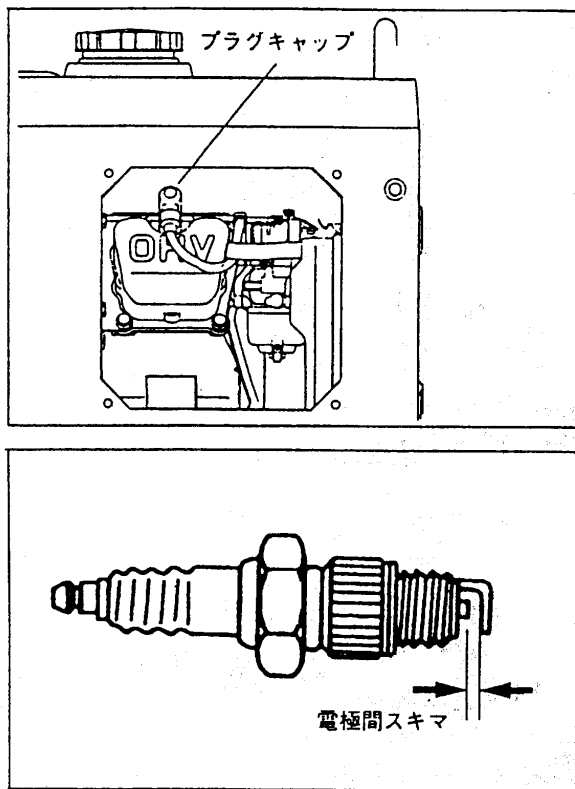
(5) スパークプラグの清掃と調整

清掃	50 時間ごと
調整	200 時間ごと

- ① 後部の点検パネルのボルト 4 本を外します。
- ② プラグキャップとその下のゴムカバーを抜き取ります。
- ③ プラグレンチでスパークプラグを外します。
- ④ 電極部とネジ部のカーボンを、プラグクリーナーかワイヤーブラシで落とします。
- ⑤ 電極間スキマを 0.7mm に調整します。

<注意>

- プラグ交換時は、『NGK/BP6HS、又は相当品』を使用して下さい。



10. 長期保管



注意：感電・けが

- 整備を行う時は、必ずエンジンを停止して下さい。



注意：やけど

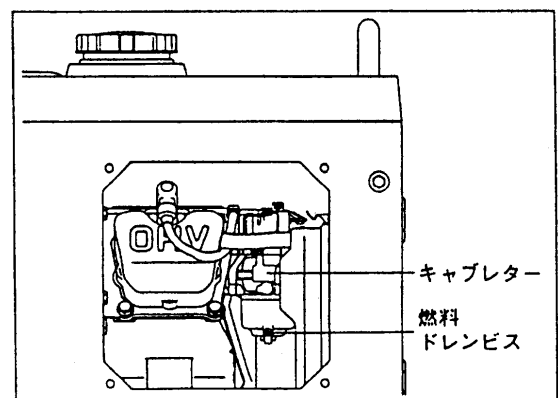
- 整備を行う時は、絶対に火気を近づけないで下さい。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから整備を行って下さい。

<注意>

- キャブレター内にガソリンを入れたまま長期間放置しますと、内部のジェットが詰まり、始動不良や回転不調などを起こす原因となります。
- ポンプやホース内に水が残ったまま長期間放置しますと、凍結や内部腐食を起こす原因となります。

本機を2ヶ月以上使用しない時は、次の手順で整備を行って下さい。

- ①運転スイッチ『停止』でリコイルを引き、ポンプ内の水抜きができているか確認します。
- ②『9点検・整備（4）燃料ストレーナーの清掃（P25）』に従って、燃料ストレーナーのカップを外します。
- ③燃料コックを『開』にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。
- ④ストレーナーカップを取りつけます。
- ⑤キャブレターの燃料ドレンビスをゆるめてキャブレター内の燃料を全部抜きます。
- ⑥キャブレターの燃料ドレンビスを締めつけます。



- ⑦『9.点検・整備 (5) スパークプラグの清掃と調整 (P26)』に従って、スパークプラグを外します。
- ⑧プラグ穴からエンジンオイルを2～3cc 注入します。
- ⑨リコイルノブをゆっくり数回引きます。
- ⑩スパークプラグを取り付けます。
- ⑪各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーをかけて保管します。

11. 故障時の対応



注意：感電・けが

- 点検を行う時は、必ずエンジンを停止して下さい。



注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないで下さい。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから点検を行って下さい。

本機の調子が悪い時は、次の表に従って点検して下さい。
点検しても正常にならない時は、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけて下さい。

症状	推定原因	処置
エンジンが始動しない	燃料コック『閉』	燃料コックを『開』にする
	燃料の不足	燃料を給油する
	燃料に水やゴミが混入	燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	オイルセンサー作動	エンジンオイルを給油する
エンジン出力が落ちた	エアクリーナーの目詰まり	エアクリーナーの清掃
水を吸わない	吸水ストレーナーが水中に沈んでいない	水タンクに水を補給
		吸水ストレーナーを洗める
	吸水ホースの接続がゆるい	増し締めする
	吸水ホースのパッキン脱落	パッキンを取りつける

症 状	推 定 原 因	処 置
水を吸わない	吸水ホースの破損	吸水ホースを交換する
	吸込揚程が高すぎる	水タンクを上げる
		本機を下げる
	吸水ストレーナーの目詰まり	ゴミを取り除く
	エア抜きバルブの故障	販売店で修理
ポンプ吸入・吐出バルブの固着・ゴミかみ込み	販売店で修理	
圧力が上がらない	吸水ストレーナーの目詰まり	ゴミを取り除く
	洗浄ガン・ノズルチップの摩耗	ノズルチップを交換する
	吸水ホースの接続がゆるい	増し締めする
	吸水ホースのパッキン脱落	パッキンを取りつける
	吸水ホースの破損	吸水ホースを交換する
	ポンプのプランジャーやグランドパッキンに傷・摩耗	販売店で修理
	アンローダーバルブにゴミかみ込み・傷	販売店で修理
	エア抜きバルブの故障	販売店で修理
圧力計の故障	販売店で修理	

**WAGNER****日本ワグナー・スプレーテック株式会社**

本社: 〒574-0057 大阪府大東市新田西町2-35 TEL:072-874-3561 FAX:072-874-3426

札幌 TEL.011-711-8111 関東 TEL.042-379-1161 関西 TEL.072-874-3561 福岡 TEL.092-472-5533
FAX.011-702-4602 FAX.042-379-1166 FAX.072-874-3426 FAX.092-471-8206

仙台 TEL.022-742-3055 名古屋 TEL.0562-98-8621 広島 TEL.082-845-8550 鹿児島 TEL.099-265-3806
FAX.022-742-3056 FAX.0562-98-8623 FAX.082-845-8551 FAX.099-265-3627

◎仕様・部品番号・価格は予告なく変更することがあります。

<http://www.wagner-japan.co.jp/>